

第二十一章 愛甲郡

一、被害状況と應急措置

激震と共に倒潰せるもの二千餘棟、人々は尙頻々として至る餘震を怖れ、難を竹林に、畑地に、將川邊に避けて、漸く生色を見るの狀態なりしが、不幸家屋の下敷となり、梁木の下に苦み呻くもの、悲しき聲に救助を求めるものもありて、時恰も晝食時間に和氣霽々たる郡は、至るところ阿鼻叫喚の村落と化したなり。

就中厚木町は、或は大龜裂を生じ、或は井水の湧出する等の混亂の中に、一千餘戸の家屋は倒潰して、手もつけられぬ狀態にありき。傷けるもの、死に瀕せるもの、老若男女の間に交りて、右に左に倒潰せる家屋の間を縫ひて逃げ走る悲惨は、目も當てられず。剩へ南部厚木町二千三百二十七番地より發火の火の手は、忽ち火勢次第に募り、町並に北へ北へと燃え擴がり、其危険いふばかりなし。然れども、誰一人警鐘を打鳴らすものさへなく、人々は唯己が身の始末に急がしくして、右往左往するのみ。後、發火の時間を計るに、激震後四、五分時の後忽ち發火といふ。次で最初の發火箇所より二町餘を隔てた厚木町二千三百二十五番地の倒壊家屋より發火し、南北の微風の漸く風力を加ふるにつれて、火勢も強大となり、全時に、厚木町二千五百三十五番地焼失區域の中央部たる倒壊家屋中に發火あり、午後三時より一層加はりし風力に従ひ、火勢は、到底人力の如何ともすべからざる程度に昂れり。勿論、消防は、臆て死力を盡して活動したりしも、紅蓮の焔は、あらゆる周圍の燃焼物件を焼滅せしめざれば止まざるの概を示せり。然し、人家の漸く中絶せる方向に延焼するや、消防隊は、破壊消防に全力を傾倒したりしたため、左掲焼失區域を焦土と化するに止まり、全町の類焼を免がれたるは不幸中の幸といふべし。

厚木町 火災 區域

(厚木町内大手町、天王町、本町、旭町、仲町に渉る明細表)

大手町	自 二五七四 至 二五九一	
天王町	自東二五五六 至東二六一八	自西二五五八 至西二六一四
本町	自 二五三一 至 二五五三	
仲町	自東二六一七 至東二六六九	自西二六一七 至西二六七一
旭町	自東二六七四 至東二六七八	自西二六六六 至西二六七二

此焼失面積三萬百九十九坪

其他、厚木町北端に位置する縣立實科高等女學校は、校舎の倒潰と同時に、本館二號室理化學標本室在庫藥品轉落激衝して發火し、同校舎の殆んど全部（僅に倒潰した寄宿舎及炊事場の一部を殘留せるのみ。）を灰燼に歸して、午後五時頃、他の民家に延燒するに至らずして鎮火し、翌二日午前二時半頃に至りて、同じく北端に位置する厚木爾絲取引所の倒壊せる乾燥室内鐵管の灼熱は、倒壊と同時に送風機の破壊せる高熱の結果發火し、幸ひ附近に延燒物件の存在するものなかりしたため、同取引所全部を灰燼に歸して、午前四時頃鎮火したり。

以上の火災に於ける燒死者は十名に過ぎざりしが、人々の恐怖は、厚木町より一層激甚なる震災地の他にあることの考へられし事にて、遙に東京横濱と思はるゝ空に、怪雲濛々として、夜は殊に一大火柱の立つ中に、怪光閃き、異

様な爆音の絶ゆる隙なく聞ゆるに、人々は、我町の焼失に呪はれながら、此凄惨の光景を目前にして、生色あるもの殆んどなく、加ふるに、風の如く傳れる鮮人襲來の聲、續いては大海嘯襲來の流言蜚語に、人心の惑亂は全く收拾すべからざるの状態に陥りたりき。

厚木警察署は、震災に伴ふ火災の發するを見るや、消防青年團在郷軍人等を召集し、署員一名に青年團在郷軍人四名宛を以て一班とし、各一班乃至二班を、火災現場、相模橋、旭町、屠場入口、中小學校々庭、各避難場等に派遣し専ら盜難、火災の豫防警戒及交通整理、雑沓の取締等警戒に努めしむると共に、一方消防手を指揮して、破壊消防に當らしめたり。

郡も亦、餘震の鎮まれる後吏員を派して其状況を視察せしむると共に、被害激甚なりし厚木、南毛利、小鮎、妻田愛川、中津及煤ヶ谷の各町村に對して、直に救護班を派遣し、又、青年團消防組の活動を懲憊し、官民協力して、警備消防、糧食配給等の應急機宜の處置に盡せしむる。殊に、厚木の慘害は、火災を伴ひし爲め一層甚だしきものあり従つて其救護に就ては頗る困難の状態にあり、町役場の如きも夙く烏有に歸して、活動の中心を失したりしが、夙く臨時救護所を郡役所内に置き、學校、校庭、路傍、堤塘と言はず、隨所に避難所を設けて罹災民を收容し、糧食の配給、傷病者の手當等、應急救護に努力したりしが、二日三日と日を経るに従ひ、近村殆んど全部の白米は食へ盡されんとせり。然も、搗くに電力なく、飲料水なく、僅に、青年團員達の犠牲的努力によりて徹夜の臼搗に辛くも不足分を補充する状態なりしに、それにて鮮人騒ぎ等人心不安のうちにありては容易ならざる仕事なりしなり。一升、五合と、漸くにして集めて出す炊出も、四日に至ると、ほとんど窮乏の極に達せしため、郡は、善後策協議の結果、愛川村の醸造家大矢氏に援助を求むるに至れり。大矢氏は、快諾して、たちどころに自家用の貯藏米百五十俵の提供を約し、自家用の電力にて精白し、運搬の道の直り次第、自家用の自動車にて運搬せんの運びとなりしにより、其處よ

り厚木迄の道路三里半の坂路の崩潰箇所、橋梁の墜落、道路の陥没等、凡そ交通の障害を、青年團員流汗の大努力によりて盡く之を除き、四日の夜中に、漸くにして其難工事を竣成せしめたり。其折、夕食の配給を終へたる厚木町配給本部には、残すところ僅に大策五個の飯米に過ぎず、それさへ明日の朝食のために一個宛を配給せば、あと一策しか残らずといふ状態にして、其日の晝は來れども、聽て又其日は傾けども、一策の飯の數千人を満足せしむることは不可能の事、本部の前には夙くも空腹を抱へし人々の黒山を築けり。然も彼等は、既に傳へられたる大矢の飯米の待遠しさに堪へかねしなりき。時は刻々過ぎ、やがて四時廻りし時しもや、遠く聞ゆる馬車の軋音、人々は其勇ましき音響に飯米來の喜びを顔に泛べたり。嗚呼二臺の馬車に滿載されたる十六俵の白米よ、それを眺めやる人々の喜悅は未だ炊かれざる米に向つて萬歳をさよめかせるなり。かくて、再び炊き出しは開始されたり。配給員はそれぞれ部署を定めて晝夜二食分の配給を終りたり。人々は滿腹の喜びに感謝の叫びをあげあふ。かくして、翌日、翌々日、大矢の白米の、厚木に齎らさるゝ事十數日間、厚木の町民は、全く一時大矢の貯藏米によりて命を繋ぎしなりき。かゝるうちに、厚木町の焼跡埋没土藏は掘り出され、更に各町村よりの補充米も提供され、玄米、味噌、醤油は、各方面より移入輸送されて、糧食配給を遺憾なからしむるに至りしなりき。

震災に因る損害戸數調査

一、總罹災戸數

全	燒	全	潰	半	燒	半	潰	損	害	見	積	額
二四一戸		内流失二〇〇テ含ム		八		内半流失一テ含ム		建	産			一〇、〇〇九、九八二圓
								動	産			九、五四二、七五八圓

二、罹災住屋の損害

被害程度	建築種別	被害棟數	全上坪數	損害見積價格
全 燒	石木 造	二四棟	八、六四四坪	四、五三四、八〇〇 ^円
全 流	木 造	二五棟	二〇〇坪	
全 埋	全 造	七	一〇〇坪	
全 潰	全 造	一、〇五七	一六、九〇四	
半 燒	全 造	八	二〇八	
半 流	全 造	一〇	一五七	六六八、五二〇
半 潰	全 造	三	四〇	
半 埋	全 造	七〇五	九、八二五	
計	石木 造	一一、〇五五	三六、〇七八	五、二〇三、三二〇

三、罹災非住屋の損害

被害程度	建築種別	被害棟數	全上坪數	損害見積價格
全 燒	木 造	四二三	六、七六八	
全 流	全 造	一一	一〇〇	二、五三〇、八〇〇

町村別	項目		種	別	計
	全	半			
厚木町	三、四九八	二九六	一、三四	四	五、〇六
依知村	一四九				三九七
中津村	五四			六	一四
高峰村	三〇				九二
計					七五九

町村別罹災人口調

計	全		半		全		半		全	全
	埋	流	流	流	埋	流	埋	流		
煉瓦造										
石クリート造										
木造										
煉瓦造	八八五									
全										
全										
木										
石クリート造										
木造										
計	三、〇九五	二九、一〇〇	一、七六九	四〇	八、一三七	二一	一、四三四	四〇	三、一八三	三六〇
計									六五三	二八〇

震災地人口調査に依る罹災人口調

厚木町	町村別	項目		計	南毛利村	玉川村	宮ヶ瀬村	煤ヶ谷村	小結村	林川村	及川村	妻田村	下川入村	棚澤村	三田村	萩野村	愛川村
		全焼	半焼														
1,000		全焼	半焼	5,761	1,134	1,100	1	6	396	7	7	230	6	1	5	2	3
19		全潰	半潰	296													
2,300		流失	埋没	1,130								6					
782		以上計	破損	3,470	1,399	290	50	20	690	5	13	356	39	1	3	4	7
				143				14									
				35		6		3									
				42				2									30
				17				7									
4,181				10,993	2,533	416	50	383	1,086	63	20	493	45		83	63	133
74																	

第二十一章 愛甲郡

計	南毛利村	玉川村	宮ヶ瀬村	煤ヶ谷村	小鮎村	林川村	及川村	妻田村	下川入村	棚澤村	三田村	荻野村	愛川村	高中峰村	中津村	依知村
一、七六六	一四二	四二	三	八	六	三	八	二七	五	一	六	七	二六	一八	六五	一〇八
二元																
四、六六四	一、〇八八	二二九	四	五七	四〇三	六〇	一六	二二九	七	六	三〇	四七	一八	五〇	六五	一五五
四、三六七	一、二一四	七五一	三	二五六	三六六	三四	二二	一八六	一〇三	六	一六	二六	一六九	一三五	一八七	二二三
九二		七	八	七三											一	
五五				三〇									二五			
一〇、九三三	二、三四三	九二八	一八	四二六	八三七	一六	四六	四四三	二一五	二二	七四	一四五	二四〇	二〇三	三三〇	四八七
二二、九八九	一、七二三	九二五	七三二	九九六	六五三	四〇五	四三〇	五一六	六六六	二五六	九三五	五二〇	八五三	二二〇	三、〇九四	

第二十一章 愛甲郡

震災罹災者
並震災地人口

調査に依る愛甲郡現在者一覽

七六一

現 者傷重	死者行衛不明者								世 帯 數	罹 災 ノ 種 類		
	計		合		行衛不明		死者					
	女	男	計	女 男	計	女 男	計	女 男				
二	五	三四	一五	一九				三四	一五	一九	三九	全燒
											四	半燒
一三	八	一八	一〇	八				一八	一〇	八	九三七	全潰
三	四	七	三	四				七	三	四	七九五	半潰
		一		一				一		一	二〇	流失
		一五	一〇	五				一五	一〇	五	八	埋没
二七	七	七四	三八	三七				七五	三八	三七	二、〇八一	以上計
三	一	三	一	二				二	一	一	二、二六〇	破損
		一		一				一		一	二、九七四	無破損
三〇	一八	七九	三九	四〇				六八	三九	三九	七、二六七	合計

本表は大正十二年十一月十五日午前零時現在
を標準とし九月一日の震災の状況を調査せる
ものなり故に現存者の合計の男女は愛甲郡に
於ける十一月十五日現在の人口となる

失職者		總計		存者										
				合計			無負傷者			輕傷者				
				計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	
女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計
一五	三四	一、七二六	八三九	八八七	一、六九	八三四	八六八	一、六五七	八〇六	八五二	一九	七	一三	一六
—	—	二九	一四	一五	二九	一四	一五	二九	一四	一五	—	—	—	—
三三	二二	四、六六四	二、二六四	二、四〇〇	四、六四六	二、二五四	二、三九一	四、五七八	二、二八	二、三六〇	四七	二三	二四	二二
一八	一一	四、三六七	二、二二五	二、一五四	四、三六〇	二、二〇〇	二、一五〇	四、三五六	二、二〇〇	二、一五六	一七	七	一〇	七
—	—	九一	三六	五五	九〇	三六	五四	九〇	三六	五四	—	—	—	—
—	—	五五	二四	三二	四〇	一四	二六	四〇	一四	二六	—	—	—	—
六六	六七	一〇、九三三	五、三九〇	五、五四四	一〇、八五七	五、三五三	五、五〇五	一〇、七三〇	五、二八八	五、四四三	八三	三七	四六	四四
一四	二二	一三、九八五	六、三三三	六、六六二	一三、九八二	六、三三三	六、六六〇	一三、九七四	六、三七七	六、六五七	四	二	二	四
一〇	一〇	一五、六七二	七、七九〇	七、八八二	一五、六七〇	七、七九〇	七、八八〇	一五、六六九	七、七八九	七、八八〇	—	—	—	—
九〇	九八	三九、五八八	一九、五〇三	二〇、〇八五	三九、五〇九	一九、四六四	二〇、〇四五	三九、三七三	一九、三九四	一九、九七九	八八	四〇	四八	四八

計	兎	一	五	元	一	一	一三	三	二〇	一八八
---	---	---	---	---	---	---	----	---	----	-----

右ハ震災當時〔神奈川、東京、静岡、千葉、埼玉、茨城、山梨、愛知、栃木、ノ府縣ニ所在セリ〕
宮城、秋田、岩手、新潟、福井、富山、大阪、三重、支那、

二、土木方面被害状況

本郡中、土木方面の災害の激甚さ、其陥没、缺壊若くは龜裂等の夥しさは、舉げて數ふべからず、其損害は概略次の如くに計上せらる。

土木方面の損害

計	道 堤 橋 河 悪	路 防 梁 川 用	復 舊 個 所	復 舊 費
			五、三七一 <small>間</small>	四三〇、〇二二 <small>円</small>
			一四、四八六 <small>坪</small>	一五八、六二四
		石造	二〇〇 <small>坪</small>	二〇、四九〇
		木造	八〇三	一一四、六六五
			六、六〇〇 <small>間</small>	三六〇、〇五〇
			六、一五〇	八九、六〇〇
				一、一七三、四五二

一、震災に因る河海湖及水路の潰裂

町村名	河海湖又名	潰裂ノ箇所及延長	損害ノ程度	復舊見込額又ハ復舊費額	損害ノ状況
厚木町	用悪水路樋間	五〇六・七	埋没、潰裂	四、七二	震動ノ爲メ潰裂又埋没セリ
依知村	用水路	二四〇・三	埋没	五〇三	全
小鮎村	全	一五〇・一	全	六〇五	全
玉川村	全	五七〇・一	全	八九	全
南毛利村	全	一六五・一	全	一、八三六	
三田組合	全	九〇〇・二	全	一、三九	

備考

河川等に於ける被害なし、又、他に及ぼしたる被害等なし。

二、震災に因る道路の潰裂 (町村道)

町村名	道路ノ種別	潰裂ノ箇所及延長	損害ノ程度	復舊見込額又ハ復舊費額	損害ノ状況
厚木町	町道	五三・二	陥没又ハ潰裂	一、五六七	
依知村	村道	二、三七	全	九、一〇三	
中津村	全	二、三〇	崩落	七四七	
高峰村	全	元九	崩落又ハ欠潰	四、〇二八	
愛川村	全	一、〇七	全	七、三〇五	
荻野村	全	四、七七	全	二、五三三	

小 鮎 村	全	三 五 一	陷	六 〇〇	
三 田 組 合	全	三 一 二	全	二 三 六 一	
南 毛 利 村	全	七 三	全	二 、 二 八 三	
玉 川 村	全	六 一	全	四 二	
煤 ヶ 谷 組 合	全	一 七 一	全	七 三	

備考

- 一、震災直後の出水に因る損害をも右表中に含む。
- 二、應急措置として各村は青年團員其他のもの出動して交通上支障なき迄に修理をなす。

二、震災に因る道路の潰裂 (縣道)

厚 木 町	縣 道	三 四 四	崩	五、四九三	
依 知 村	全	六 〇〇	全	六 二〇	
中 津 村	全	二 〇 三	全	五、七九五	
高 峯 村	全	三 一 九	全	六、〇八八	
愛 川 村	全	二 四 六	全	二、七八五	
荻 野 村	全	六 一 四	全	二、三五二	
三 田 組 合	全	六 七 〇	全	五、九六八	

町村名	橋梁ノ種類	潰裂ノ箇所數	損害ノ程度	復舊見込額又ハ復舊費	損害ノ狀況
厚木町	土橋	一	墜落	二、〇五六	墜落改築ヲ要ス
依知村	板橋	三	全	二、二六七	全
中津村					
高峰村	土橋	一	全	四四七	全
愛川村					
荻野村	全	一	全	五三八	全
三田組合	土橋	一	全	五五四	全
小鮎村	土橋	一	全	一九三五	全
煤ヶ谷組合					
玉川村	全	一	全	一、二三三	全
南毛利村	全	三	全	一、六五一	全

三、震災に因る橋梁其他の潰裂 (町村道)

小鮎村	全	六	全	七、七九二	
煤ヶ谷組合	全	一	全	五、五八四	
玉川村	全	四	全	六、〇一九	
南毛利村	全	八	全	一、二三三	

第二十一章 愛甲郡

備考

一、震災直後の出水に因る被害も前掲に含有す。

三、震災に因る橋梁其他の潰裂 (縣道)

町村名	橋梁ノ種類	潰裂ノ箇所數	損害ノ程度	復舊見込額又ハ復舊額	損害ノ狀況
厚木町	コンクリート及木橋	四	墜落	一七、五六七	相模ハ架設ノ相模橋兩端墜落シ交通杜絶
依知村	板橋	一	全	五五三	
中津村	木橋	一	墜落	一、〇六〇	
高峰村	コンクリート	三	全	四、九二六	
愛川村	コンクリート	一	全	六、三五二	
荻野村	コンクリート	一	全	三、三七七	
小鮎村	コンクリート	一	全	一六、一七〇	
三田組合	コンクリート	一	全	六、〇四五	
煤ヶ谷組合	コンクリート	一	全	三、二二七	
玉川村	コンクリート	一	全		
南毛利村	板橋	一	全		

備考
町村道々全じ。

四、震災に因る堤塘其他の潰裂

町村名	堤塘ノ種別	潰裂ノ箇所數	損害ノ程度	復舊見込額又ハ復舊額	損害狀況
厚木町	築堤	三	潰裂	三五、四四	陥落若クハ潰裂シテ堤ノ現ナリ
依知村	全	六	全	一七〇、五八	全
中津村	全	三	全	一六、四六	全
高峰村	全	九	全	三、九三	全
愛川村	全	五	全	一八、三一	全
荻野村	全	一	全	—	全
三田組合	全	一八	全	一三三、〇三	全
小鮎村	全	元	全	一〇、三四	全
煤ヶ谷組合	全	三	全	三二、〇四	全
玉川村	全	二	全	一〇、九二	全
南毛利村	全	四	全	二二、六七	全

備考

- 一、震災直後の出水の損害も右表中に含む。
- 二、應急措置としては、消防組及青年團等にて、土俵及其他の物件を以て水防をなす。

五、河海名及掃除及流木の整理
水路名

町村名	河海名及水路名	流路延長	掃除區域及其ノ方法	流木種類及其ノ員數	整理區域及其ノ方法
依知村	中津川	依知村地先		杉、槻、紅葉、其他 二十六本	
中津村	全	中津村地先		杉、樅 四本	
高峰村	全	高峰村地先		槻 二本	
愛川村	全	愛川村地先		杉、槻、樅、梅 二十八本	
三田村組合	全	三田村組合地先		全 二十本	

備考

一、本流木は丹澤山御料地より流出せる樹木にして、各漂着地先町村に無代下附せられたるものなり。陸揚運搬等の費用は、皆各其地先町村に於て負擔せり。

二、右以外の流出木も多かりしが、皆流失者之漂着地先町村との協定により、何れも圓滿に解決せり。

三、産業方面の被害状況

(1) 商工業方面 本郡商工業被害の大部は、厚木町と愛川村に於て、其他は輕微記すに足らず。

厚木町は、震災に次ぐに火災を以てし、町の中樞區域全く烏有に歸し、商品取引は勿論、一般商業の機關すべて不能となり、其損害甚だしかりき。

愛川村は、縣下有數の撚絲業地にして、商業方面の被害は比較的輕微なりしも、商品取引上、交通機關の杜絶と供給地の震災とによりて支障を來せり。然も其工業に於いては、土砂崩壊によりて水路を閉鎖され、水利の便を缺き、原動力は水車の運轉不能に陥りて休業するの止むを得ざるに至れり。のみならず、東京横濱の震火災激甚なりし爲、

生産品の販路の杜絶或は賣掛金の不收に歸したるもの實に六十二萬圓に達し、其他生産品（練絲）の焼失二十一萬圓、原料の焼失（生絲）十萬圓に達したり。なほ、郡内に於ける被害の大要次の如し。

業別	全焼		全潰		半焼		半潰		損害見積額
	戸	計	戸	計	戸	計	戸	計	
商業	一八三		五三五		五		六八		七、五七、八三〇
工業	一		八七						八、三〇九、四〇五
計	一八三		六三三		五		一三六		一、〇八六、六五〇
計									六〇九、八〇〇
計									八、一三七、六〇〇
計									九、三九六、〇五五
計									一七、五三三、六七五

備考

動産は、器具、機械、商品を含む。

(2) 農業方面 農業方面の被害は、表示の如く、田畑の流出埋没崩潰せるものは、主として、愛川村、煤ヶ谷村、宮ヶ瀬村、王川村等を被害地とす。これは、水源地方の山林崩壊により、降雨に遭遇する毎に土砂流失し、爲に河底の高まれるによるものにして、従つて山間に散在する田畑に多かりしなり。

農作物に被害を及ぼしたりし事は、時恰も農作物の登熟期でありしがためにして、殊に、稻作の如きは、震動の爲に細根切斷せられて、榮養輸送の途を絶たれし結果、登熟に支障を來し、減收の因をなしたるが如し。其他、畑に於ける大豆、粟、其他も、同一理由により登熟の支障尠からざりき。

(3) 蠶業方面 恰も晩秋蠶の飼育中なりし爲、蠶室を倒潰せられたるものは勿論、比較的被害少き養蠶家も、餘震頻々たりし爲、安心して屋内飼育をすることに能はず、又、幾日か、不逞鮮人襲來の流言に脅かされて、老幼婦女子は

家を捨て、他に避難し、壯者は又徹宵警備に當らざるべからず、爲に家業に就くこと能はず、且は蠶兒を省るの違なく、終に之を廢棄したるものも亦少からざりき。假令、之を廢棄せざりしものも、飼育不能に陥り、收穫殆んぎ皆無の状態にて、其損害は實に甚大なりき。

此外桑園の被害も輕少のものならず、殊に、養蠶の盛なりし宮ヶ瀬村煤ヶ谷村の如きは、山地の崩潰、埋没のため、其被害甚だしく、之が爲、同地方の蠶業上に、影響を及ぼし、従前の掃立量を維持すること不可能となれり。又其他の町村に於ても、被害水源地の河床の高まりしが爲、堤防缺潰に因る流失埋没せるものも少からず、河岸の地に被害の極めて多きが認められたり。

蠶室の倒潰せるものは、南毛利村、厚木町、妻田村に最も多く、此等倒潰せられし箇所にては、蠶具の損傷頗る多く、復舊困難のもの多し。

生繭取引は、本郡の繭集散地なる厚木町が、震災により繭取引問屋並に繭絲取引所を烏有に歸せしめしため、秋繭取引上大なる影響を及ぼし、殊に地方に於ける繭乾燥所は、一として使用せらるべきものあらずなり、終に發蛾を廢繭となさしむるに至れり。それにもかゝらず、繭價は、震災前の相場に比して、約三分の一の價格に低落して取引せられし状態なりき。

(4) 漁業方面 相模川及其支流なる本郡中津川、小結川筋に於ける鮎は、年三千四百十五貫を算し、大正十二年に於ける此價格三萬四千六百四十五圓餘に上りしも、山地の崩壊の爲、震災後は數日間濁水横溢し、上記の鮎は勿論他の魚族は一時悉く絶滅せしやの感ある程收穫なく、其漁業者に及ぼす影響、頗る大なるものありき。

(5) 山林方面 山林の埋没、崩潰は、煤ヶ谷村、宮ヶ瀬村、玉川村、愛川村、荻野村等、其損害の大なる地方にして、煤ヶ谷村、宮ヶ瀬村の如きは、古來製炭を主業とせし地方なりし爲、生活の生命を奪はれたるが如き悲惨なる状

態を呈せり。

農産物並林産物被害調査 (其一)

被害面積 收穫立木共皆無

町村名	區分				
	田	畑	桑園	山林	其他
厚木町	反	反	反	反	反
依知村					
中津村					
高峰村					
愛川村				〇	
荻野村					
三田組合					
小鮎村					
煤ヶ谷村	五	三			
宮ヶ瀬村分					
玉川村	三	四		一五〇	
南毛利村	三	三		三	
埋					
厚木町	反	反	反	反	反
依知村	六				
中津村					
高峰村	二				
愛川村	五	八		二〇〇	
荻野村			一		
三田組合	三	五		五	
小鮎村				二	
煤ヶ谷村	三	八		五〇	
宮ヶ瀬村分	三〇	二四		一五〇	
玉川村	三	三〇		二〇〇	
南毛利村	五	三		三	
没					
厚木町	反	反	反	反	反
依知村					
中津村					
高峰村					
愛川村				四	
荻野村					
三田組合					
小鮎村					
煤ヶ谷村					
宮ヶ瀬村分					
玉川村					
南毛利村					
崩					
厚木町	反	反	反	反	反
依知村					
中津村					
高峰村					
愛川村		五			
荻野村					
三田組合					
小鮎村		二			
煤ヶ谷村		二			
宮ヶ瀬村分		八			
玉川村		八			
南毛利村		〇			
潰					
厚木町	反	反	反	反	反
依知村					
中津村					
高峰村					
愛川村				八〇〇	
荻野村				六七三	
三田組合				八	
小鮎村				三七	
煤ヶ谷村				八九五〇	
宮ヶ瀬村分				九八五〇	
玉川村				五、〇〇〇	
南毛利村				五	
宅地					
厚木町					坪
依知村					
中津村					
高峰村					
愛川村					三
荻野村					
三田組合					
小鮎村					
煤ヶ谷村					
宮ヶ瀬村分					
玉川村					
南毛利村					

計	二二	一〇	一六〇	三	一三	二六	一	六〇七	七	一四	一三	二二五、五〇	一	一三
---	----	----	-----	---	----	----	---	-----	---	----	----	--------	---	----

農産並林産物被害状況調 (其二)

被害面積

町村名	區分				收穫五割以上ノ減少				收穫三割以上ノ減少				收穫三割未滿ノ減少			
	田	畑	桑園	山林	田	畑	桑園	山林	田	畑	桑園	山林	田	畑	桑園	山林
依知村	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反
中津村																
高峰村				五										五		
愛川村																
荻野村																
三田組合				九				三					三			
小鮎村			八三					七					七			
煤ヶ谷村																
宮ヶ瀬村																
玉川村				一、〇〇〇				二、〇〇〇					五、〇〇〇			
南毛利村																
厚木町	一〇	二〇	二〇		一五	二〇	三〇		三〇	一〇〇		七〇				七〇

計	九〇	一二五	三一、〇一四	一五六	七二	三七	二、〇〇〇	三三五	二二九	五、〇〇七	八三
---	----	-----	--------	-----	----	----	-------	-----	-----	-------	----

農産並林産物被害状況調 (其三)

町村名	區分	農作物又ハ立木の被害見積價格				秋	同 損害見積價格 上
		田	畑	山	林		
厚木町		九七五	四三〇		桑園 一、〇〇五	三〇〇	三、〇〇〇
依知村		二、二五〇		二、八五〇	三〇〇	八〇〇	六、四〇〇
中津村				五〇〇		一、一〇〇	八、四〇〇
高峰村				二五〇		三〇〇	三、〇〇〇
愛川村		一八〇	五三〇	七、七〇〇	二、五〇〇	一〇〇	七〇〇
荻野村		九七五	一〇〇	一、三四、六〇〇		一、一一五	一〇〇、三五〇
三田組合		五〇〇		二五〇		二、七〇〇	一九、八五〇
小鮎村		七五〇	二、五〇〇	五、〇〇〇	五〇	二、四九八	一七、四九六
煤ヶ谷村		三、〇一〇	三、三〇〇	一八〇、〇〇〇		三三〇	二、二四〇
宮ヶ瀬村分		一、六八〇	九六〇	一〇〇、〇〇〇		一五〇	一、〇五〇
玉川村		四、六〇〇	四、三二〇	二〇〇、〇〇〇		一、七四〇	一三、九二〇
南毛利村		八、三五〇	七九五	七五〇	三〇〇	一八〇	二二、六〇〇
計		三三、二七三	一三、〇二五	九〇一、二〇〇	四、三五五	一、四三〇	一八、〇〇六

一、桑園の被害

養蠶業震災被害状況調査

町村別	項目	被害反別	全桑園ニ對スル被害歩合	被害ノ種別
厚木町		三反	八厘	地崩
依知村		五反	二厘	全
中津村		一反	一厘	全
高峰村		〇	九厘	山崩地崩
愛川村		〇	九厘	全
荻野村		八反	九厘	地崩
三田村		八反	八厘	地崩
棚澤村		三反	八厘	全
下川入村		三反	八厘	地崩
妻田村		三反	八厘	全
及川村		三反	八厘	地崩
小林村		二反	一厘	山崩地崩
小鮎村		二反	一厘	山崩地崩
煤ヶ谷村		五〇反	九三厘	全

二、蠶室（居宅兼用を含む）

養蠶業震災被害状況調

計	南毛利村	玉川村	宮ヶ瀬村
二〇九	三	一〇	一一〇
一一	一一	二九七	全
	地崩	全	全

町村名	項目	被害棟数				明年春蠶掃立数量増減見込 (本年ニ比シ)
		養蠶戸数	倒潰セルモノ	半潰セルモノ	焼失セルモノ	
厚木町		三八戸	一九戸	一九戸	二割減(五二)	
依知村		四〇戸	一三戸	二七戸	増減ナシ	
中津村		一〇戸	三戸	七戸	五歩増	
高峰村		八戸	三戸	五戸	増減ナシ	
愛川村		二二戸	二戸	二〇戸	全	
萩野村		五戸	一戸	五戸	全	
三田村		八戸	四戸	四戸	全	
棚澤村		一戸	一戸	一戸	全	
下川入村		七戸	一戸	六戸	全	

計	南毛利村	玉川村	宮ヶ瀬村	煤ヶ谷村	小鮎村	林川村	及川村	妻田村
六二七	三一九	三七	一	三四	四六	四	一	四八
二三九	一四二	八	一	四	一四	一	一	二五
三八四	一七七	二九	一	二六	三二	三	一	二三
四	五	五	四	四	全	全	全	全
二分二厘減(一八二)	五分四厘減(一四〇)	増減ナシ	二割五分減(一〇三)	五分減(三七)				

三、本年晚秋蠶の被害

町村名	九月一日催青又ハ飼育中蠶ノハ掃立枚數	災害ニヨリ飼育又ハ掃立ヲ中止セル枚數	收繭減少見込額	九月一日以降蠶額	同上生糸一貫匁賣買價格
厚木町	八二	七〇	三〇〇	二〇	八
依知村	一、五三一	三〇六	一、三〇〇	二、〇四八	八
中津村	一、一四〇	三四二	一、二〇〇	一、八七七	七
高峰村	一、三九一	四一七	九三八	二、一九一	八
愛川村	二五〇	七五	一〇〇	四五〇	七

計	九、九三八	三、一三二	一一、六三〇	一一、〇八一		
荻野村	一、二四〇	一五〇	一、一一五	一、三六五	九	圓
三田村	四八九	一七〇	五七五	二八六	七圓五十錢	
棚澤村	一五二	四六	一七九	九五	全	
下川入村	三二〇	九六	三七三	二〇一	全	
妻田村	一七四	八七	三五一	一一九	全	
及川村	一五二	三〇	一九一	一二八	全	
林村	九六	二八	一三八	七七	全	
小鮎村	一、一一〇	五四〇	一、八九八	八二〇	七	圓
煤ヶ谷村	三三九	九五	三二〇	二三〇	七	圓
宮ヶ瀬村	五〇	二五	一五〇	二〇	七	圓
玉川村	三〇〇	九〇	七〇二	三七八	八	圓
南毛利村	一、二二二	六九〇	一、八〇〇	七七六	七	圓

四、財政に及ぼせる影響と其整理

這般の震災が、町村の財政に及ぼしたる影響に付ては、各町村何れもこれあらざるなし。今茲に、之等各町村が、該影響を受けたるものに對し、町村税の減免、納税延期を許したるもの及本税の減免により、附加税を賦課し得ざるもの等を表示すれば、次の如し。

種別	大正十二年度分		大正十三年度分	
	延税額	延税員	延税額	延税員
減税	八五二	八	一六	一
免稅	一、〇五七	一〇	五〇	五
納稅延期	二八六	二	一	一
町村稅ヲ賦課シ得サルモノ	四六五	四	四四	四
延稅	一、三三二	一三	一、一八三	一
延稅	二、六二二	二六	二、七〇一	二
延稅	四、九九五	四九	四、九〇一	四

備考

延人員は、税目毎に計算したる各人員を集計したるものなり。

叙上の人員金額を、十二年度の各町村の町村税調定延人員五萬七千五百九十七人、税額二十二萬百五十七圓より見るときは、極めて少額に過ぎざるも、此内、厚木町の被害甚大なりし爲、十二年度の調定額二萬一千九百圓中、四千三百餘圓（十三年度は約二千五百圓）の賦課し能はざるものあるに至り、町財政に及ぼしたる影響、決して尠しとせず。況んや、此外、税外收入、其他に於て、多額の歳入缺陷あるに於ておや。

大正十三年度歳入缺陷額其他調

町村名	歳入缺陷額	整理節約ニヨリ補填シ得ラルル額	歳入増加ニヨリ補填シ得ラルル額	國庫貸付金ノ轉貸ヲ受クントスル額
厚木町	一三、三九二	一	三、〇二六	一〇、三六六

計 一三、三九二 三、〇二六 一〇、三六六

更に各町村の罹災公營物、即ち、役場、小學校、病舎、道路、堤塘等の應急復舊工事等の爲要する費額尠少ならず爲に町村基本財産の費消は勿論、特別緊要なるものゝ外は、總て其の施設を休止せざる可からざることとなり、尙多額の公債を他に仰がざる可からざるに至る。これらの町村公債は、實に左に記するが如く、其額頗る多大にして、如何に低利なりとは云へ、二十三年乃至三十年（償還年限）間連續せる債務なれば、町村財政上又甚だ苦痛ならざるを得ず、然れども、この低利且長期の融通金あるが爲に、應急施設は勿論、復舊事業の遂行をも見るに至りしにして、顧みて又郡は、それを頗る多幸としたるなり。况んや、之等の償還には、何れも確實なる財源ありて、財政上敢て憂ふべきものあらざるに於ておや。

國庫貸付金の轉貸を受けたる町村震災應急復舊費融通金（町村公債）調

町村名	小學校費ノ分	小學校費以外ノ分	計
厚木町	一一三、〇〇〇 円	五四、〇〇〇 円	一六六、〇〇〇 円
棚澤村	九〇〇	五〇〇	一、四〇〇
下川入村	八、一〇〇	一、五〇〇	九、六〇〇
小鮎村	六三、五〇〇	九、〇〇〇	七二、五〇〇
煤ヶ谷村	二、〇〇〇	四、〇〇〇	六、〇〇〇
宮ヶ瀬村		六、〇〇〇	六、〇〇〇

第二十一章 愛甲郡

七八二

南 毛 利 村	三、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇
計	一八九、五〇〇	七六、〇〇〇	二六五、五〇〇